

(図1-2-6-9)。

オ 養護者による虐待を受けている高齢者の約7割が要介護認定

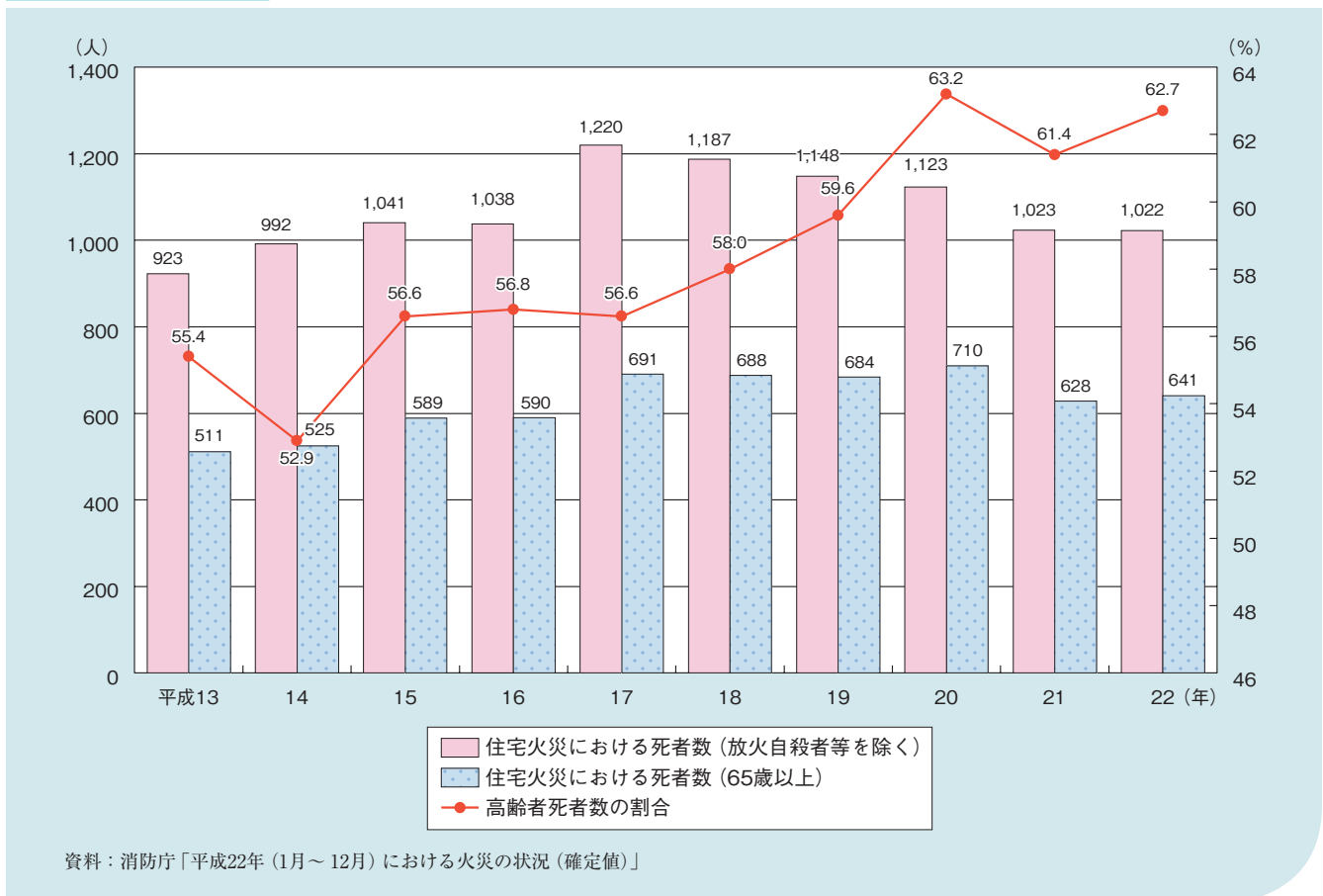
平成22(2010)年度に1,745市町村(特別区を含む。東日本大震災の影響により、調査報告が困難であった岩手県・宮城県の5市町を除く。)及び都道府県で受け付けた高齢者虐待に関する相談・通報件数は、養介護施設従事者等によるものが506件(うち虐待と判断された件数は96件)、養護者によるものが25,315件(同16,668件)といずれも前年と比べて増加した。養護者による虐待の種別(複数回答)は、身体的虐待が63.4%で最も多く、次いで心理的虐待(39.0%)、介護等放棄(25.6%)、経済的虐待(25.5%)となっている。

養護者による虐待を受けている高齢者の属性を見てみると、女性が約8割を占めており、年齢階級別では「80~84歳」が23.2%と最も多い。また、虐待を受けている高齢者のうち、約7割が要介護認定を受けており、認知症である者(要介護認定者における認知症日常生活自立度「Ⅱ以上」の者)が、被虐待高齢者全体の47.1%を占めた。また、虐待の加害者は、「息子」が42.6%と最も多く、次いで、「夫」16.9%、「娘」15.6%となっている(図1-2-6-10)。

(4) 高齢者による犯罪

65歳以上の高齢者の刑法犯の検挙人員は、平成22(2010)年は48,145人と前年に比べほぼ横ばいであったものの、13(2001)年と比較すると、検挙人員では約2.4倍、犯罪者率では

図1-2-6-9 住宅火災における死者数



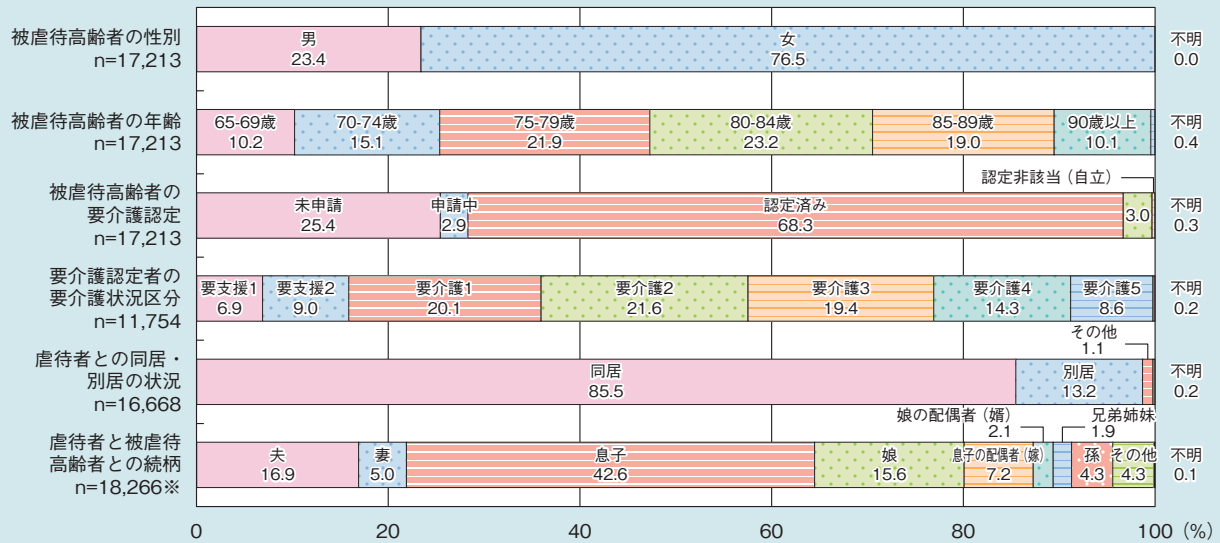
約2倍となっている。また、22（2010）年における高齢者の刑法犯検挙人員の包括罪種別構成比をみると、窃盗犯が71.4%と7割を超えている（図1-2-6-11）。

(5) 高齢者の日常生活

ア 生きがいを感じている人は約8割

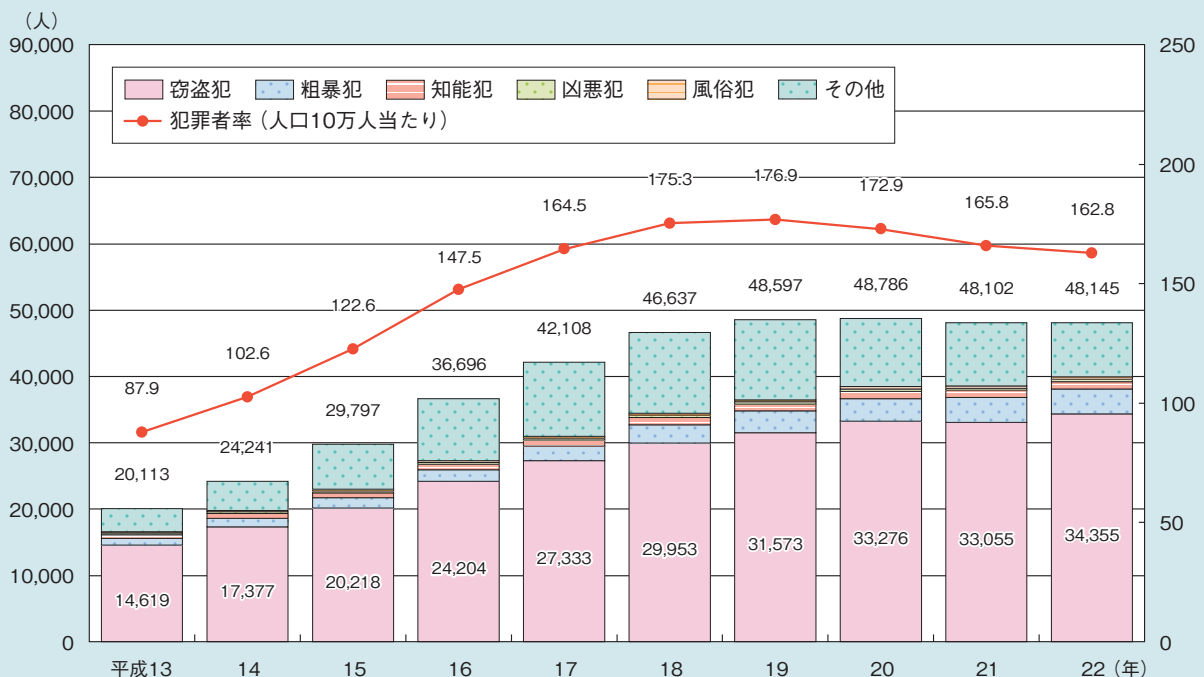
60歳以上の高齢者が生きがいをどの程度感じているかについて見てみると、「十分に感じて

図1-2-6-10 養護者による虐待を受けている高齢者の属性



資料：厚生労働省「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律に基づく対応状況等に関する調査結果」（平成22年度）
 ※1件の事例に対し虐待者が複数の場合があるため、虐待判断事案件数と虐待人数は異なる。

図1-2-6-11 高齢者による犯罪（高齢者の包括罪種別刑法犯検挙人員と犯罪者率）



資料：警察庁「平成22年の犯罪情勢」